

もみじ台地域小規模校検討委員会では、もみじ台地域の学校規模の適正化を進めるための諸課題について具体的な方策を検討しています。

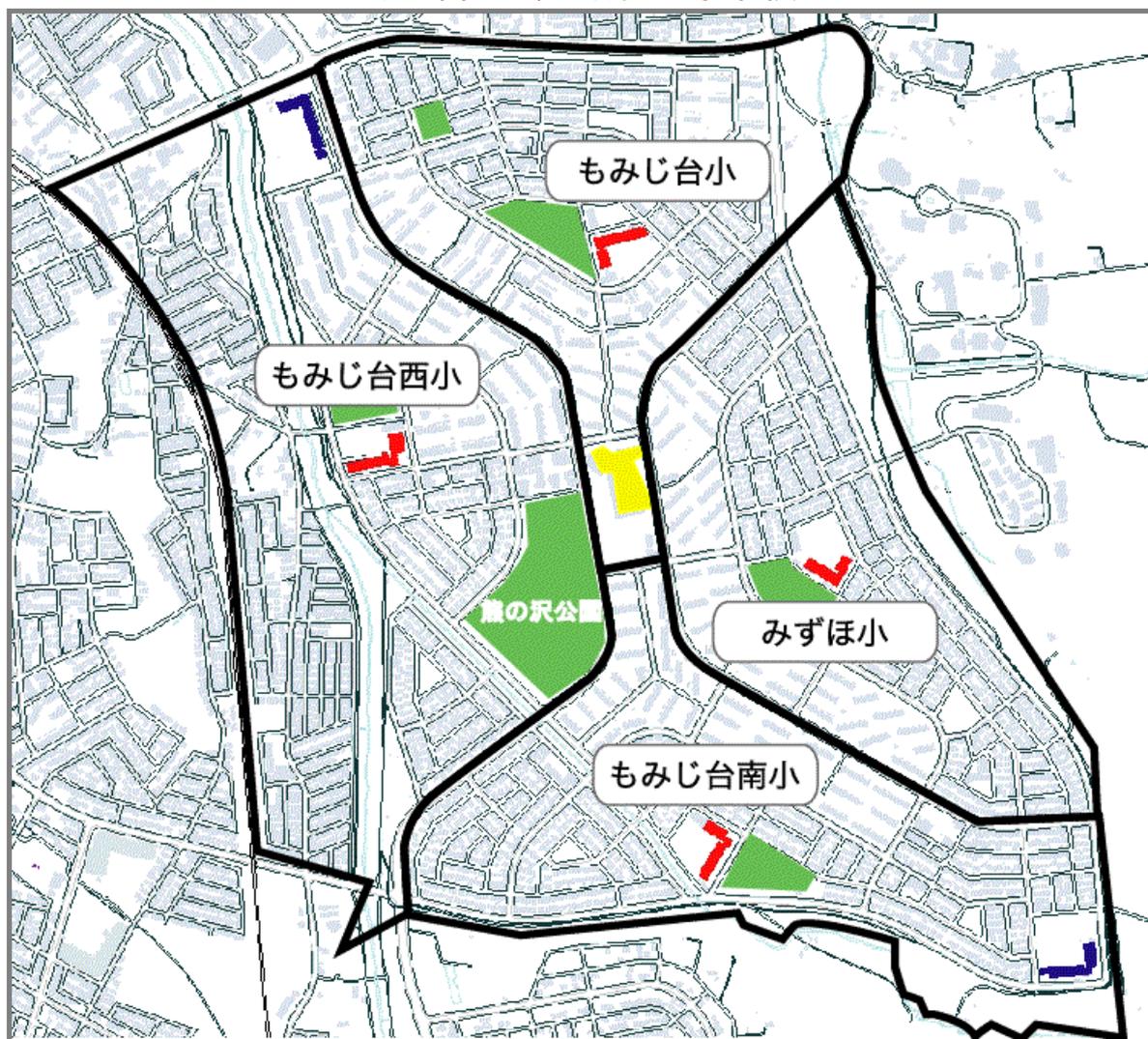
今回は、第2回(9月25日)、第3回(11月19日)検討委員会の内容についてお知らせいたします。

## もみじ台地域 小規模校検討委員会ニュース

### 第2回、第3回検討委員会における検討

第2回、第3回検討委員会では、統合パターンについて検討を行いました。

もみじ台地域と現在の小学校区



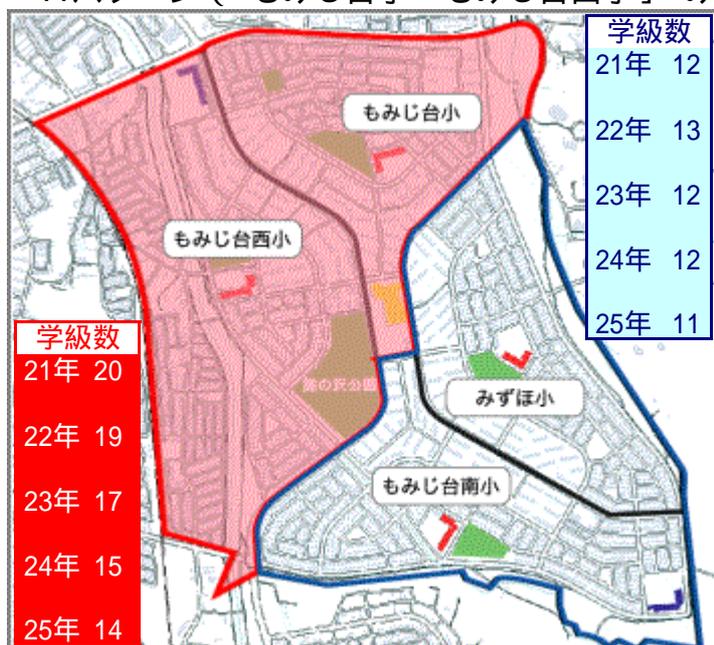
もみじ台地域4校の現在の校区や児童数をもとに、新たな校区や統合位置について、児童数・学級数や通学距離等の観点から検討を行いました。

検討内容の詳細については、2頁以降をご覧ください。

## 第2回検討委員会(9月25日)における検討内容

第2回検討委員会では、現在の校区をもとに検討を行いました。

Aパターン(「もみじ台小+もみじ台西小」「みずほ小+もみじ台南小」)



メリット

- ・ 新たな校区は、進学する中学校と同じ校区になる。

課題

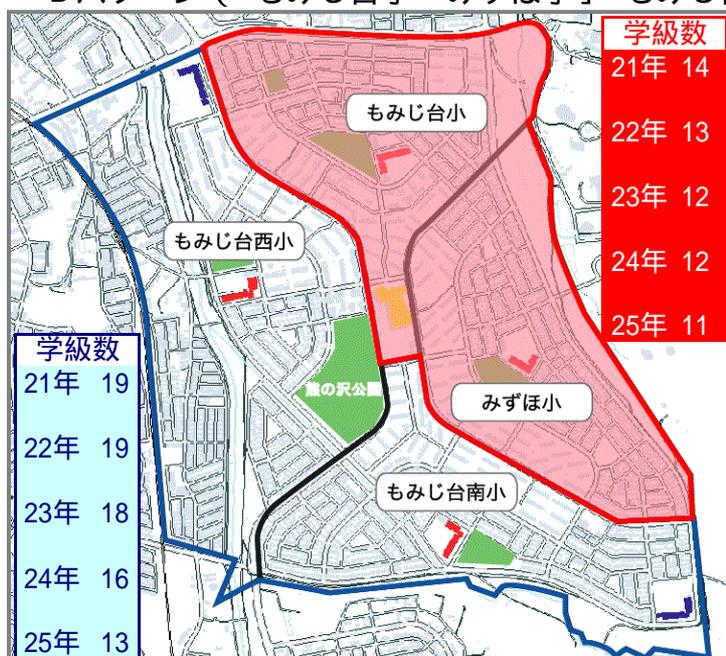
- ・ 「みずほ小+もみじ台南小」では、平成25年以降に1学級となる学年が見込まれる。
- ・ 統合位置によっては、通学距離が2kmを超える地点が生じる。

### 各委員からの主な意見

Aパターンは、中学校区が同じという観点でいいと思う

「みずほ小+もみじ台南小」の学級(児童)数や、最長通学距離に課題がある

Bパターン(「もみじ台小+みずほ小」「もみじ台南小+もみじ台西小」)



メリット

- ・ 新たな校区は中学校の校区と異なることから、9年間(小学校6年、中学校3年)の人間関係が固定化しない。

課題

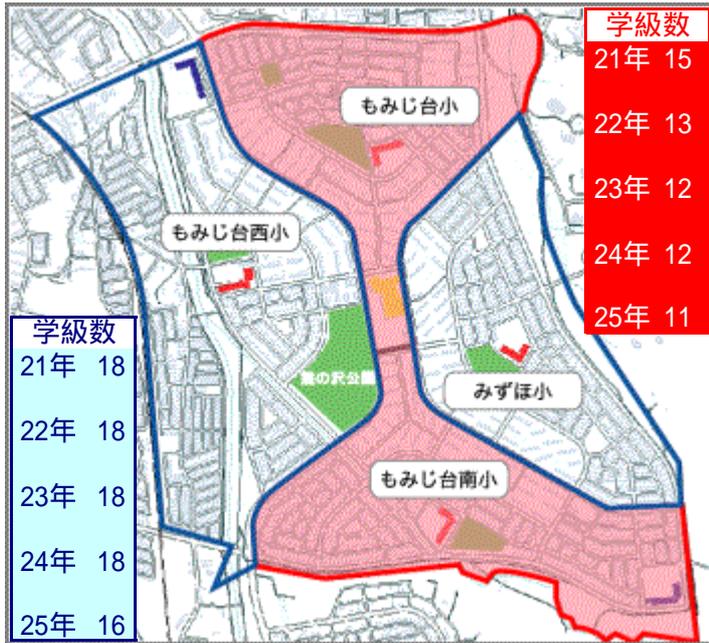
- ・ 「もみじ台小+みずほ小」では、平成25年以降に1学級となる学年が見込まれる。
- ・ 通学距離が2kmを超える地点が生じる。

### 各委員からの主な意見

Bパターンは、中学校で新たな人間関係ができるのでいいと思う

「もみじ台小+みずほ小」の学級(児童)数や、最長通学距離に課題がある

Cパターン（「もみじ台小+もみじ台南小」「みずほ小+もみじ台西小」）



メリット

- ・ 新たな校区は中学校の校区と異なることから、9年間（小学校6年、中学校3年）の人間関係が固定化しない。

課題

- ・ 「もみじ台小+もみじ台南小」では、平成25年以降に1学級となる学年が見込まれる。
- ・ 通学距離が2kmを超える地点が生じる。
- ・ 地理的に不自然な校区となり、地域としての一体性が乏しくなる。

各委員からの主な意見

校区が不自然すぎ、選択肢とはならない

Dパターン「もみじ台小+みずほ小+もみじ台南小+もみじ台西小」



メリット

- ・ クラス替えが可能な学校規模となり、人間関係の固定化が解消される。

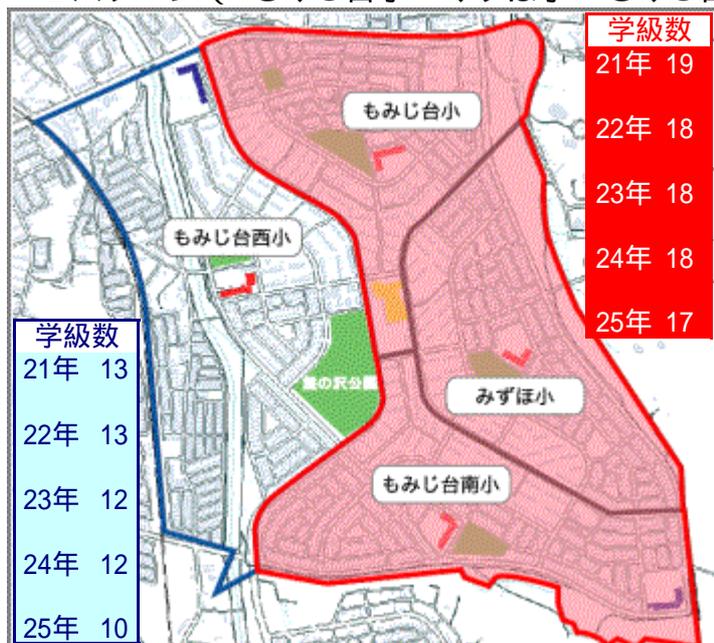
課題

- ・ どの学校が統合校となっても通学距離が2kmを超える。
- ・ 4校統合後の児童を1校に収容できる見込みがない。

各委員からの主な意見

人間関係の固定化が解消されるという面ではいい  
 将来的にはこのような形になる可能性はあるが、統合後の児童数や通学距離等の面から現時点では時期尚早である  
 子どもの教育環境という観点で考えると、学校規模が大きくなりすぎる

Eパターン（「もみじ台小+みずほ小+もみじ台南小」「もみじ台西小」）



メリット

- ・「もみじ台小+みずほ小+もみじ台南小」では、クラス替えが可能な学校規模になる。

課題

- ・「もみじ台西小」では、平成 25 年以降に 1 学級となる学年が見込まれる。

各委員からの主な意見

校区のバランスという点で不自然である

各委員からの主な意見(第2回検討委員会全体を通して)

通学距離を考慮しながら、12 学級を下回る規模にならないよう考えていく必要がある。

統合後の通学安全については、地域が責任を持って関わっていききたい。

通学安全については、不審者、冬の除雪の問題等も含めて考えていく必要がある。今回のパターンで統合を進めてしまうと、何年か先にまた小規模化の問題が生じる。現在の校区をもとに考えていくことには限界がある。

もみじ台地域全体で考えて新たな校区を設定することによって、通学距離が 2 km 未満で、平成 25 年になっても各学年 2 学級以上となる組み合わせができると思う。現在の校区の見直しも行いながら、いくつかの条件をクリアするものを考えていくと、新たな方向性も見えてくる。

AパターンやBパターンの校区を少し変更したら、どういうメリットや課題があるのか検証してみたい。

5つ以外のパターンとして、南北や東西に分割するパターンを検討してみてもどうか。



以上の検討から、A から E までのどのパターンも統合後の学級数や通学距離の面で課題があることから、次回第 3 回では現在の校区にとらわれずに、もみじ台地域を南北あるいは東西に分割するパターンを新たに作成し検討を行うことになりました。

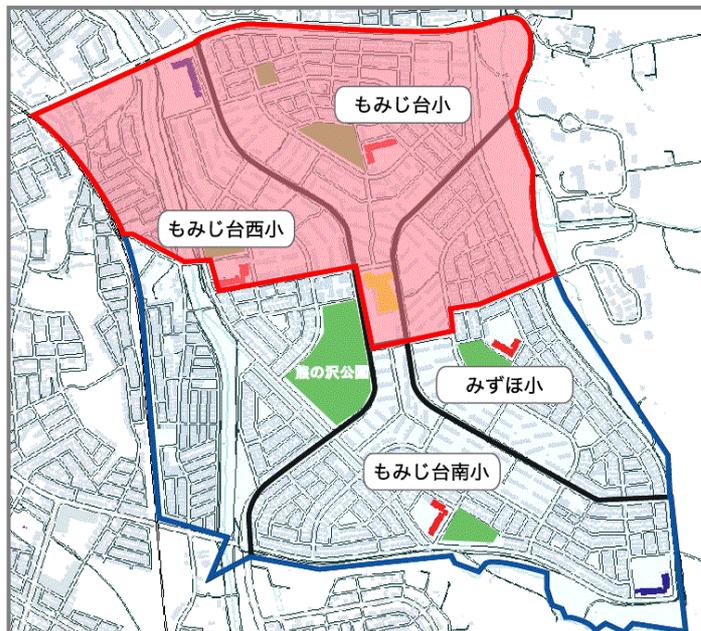
## 第3回検討委員会(11月19日)における検討内容

第3回検討委員会では、現在の校区にこだわらず、もみじ台地域4校の校区全体を南北及び東西に分割するパターンについて検討を行いました。

児童数は住民基本台帳登録数（H20.5.1現在）より

### 南北パターン

みずほ小ともみじ台西小を南北に分割するパターン（校区面積のバランスから）

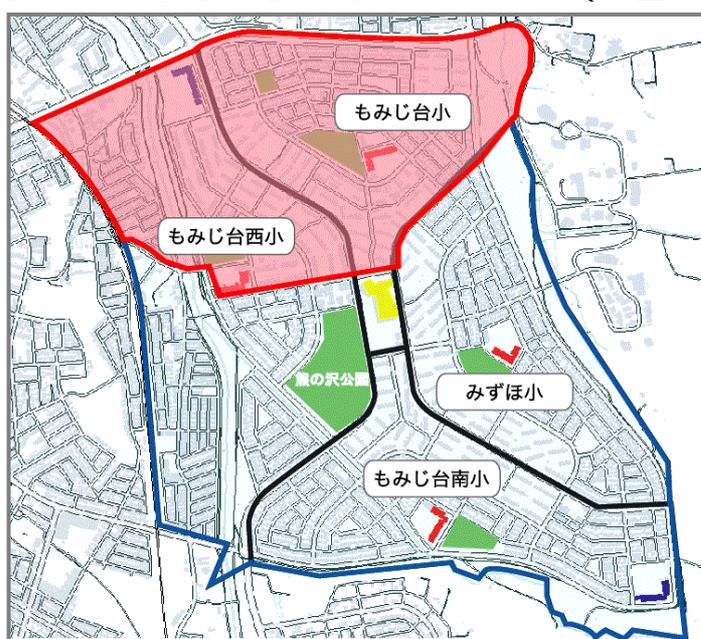


年度	学級(児童)数	
	北部	南部
平成21年	19 (613)	16 (463)
平成22年	19 (586)	15 (462)
平成23年	18 (546)	14 (450)
平成24年	18 (529)	14 (442)
平成25年	18 (511)	13 (415)

- メリット
- ・統合後にはクラス替えが可能な学校規模となる。
  - ・中心部に位置する学校を統合位置とすると通学距離は2km以内に収まる。
- 課題
- ・統合時に、現在のクラスメイトと分かれることとなる学校がある。
  - ・北部に比べて南部がやや小規模な児童数となる。
  - ・青葉町の児童が河川を迂回して通学することになる。

### 南北パターン

もみじ台西小を南北に分割するパターン（児童数のバランスから）

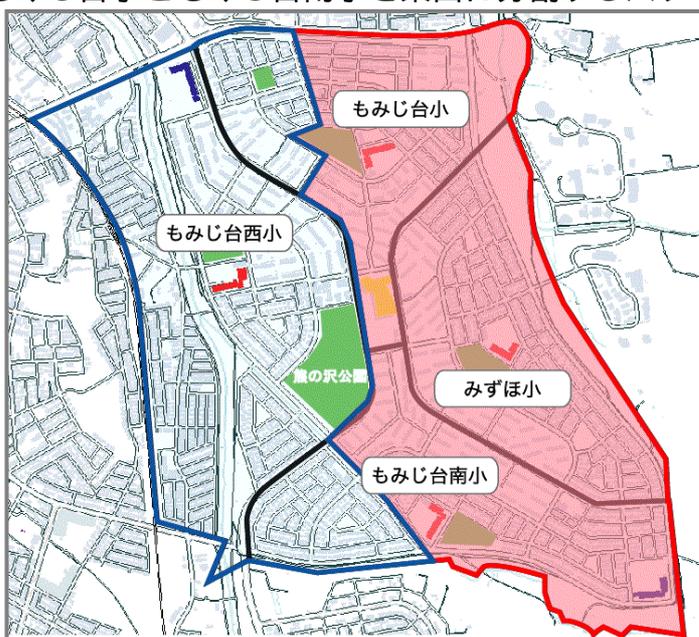


年度	学級(児童)数	
	北部	南部
平成21年	17 (553)	17 (523)
平成22年	16 (524)	16 (524)
平成23年	14 (481)	16 (515)
平成24年	14 (463)	17 (508)
平成25年	14 (447)	16 (479)

- メリット
- ・統合後には、クラス替えが可能な学校規模となる。
  - ・中心部に位置する学校を統合位置とすると通学距離は2km以内に収まる。
- 課題
- ・統合時に現在のクラスメイトと分かれることとなる学校がある。
  - ・青葉町の児童が河川を迂回して通学することとなる。

### 東西パターン

もみじ台小ともみじ台南小を東西に分割するパターン(児童数、校区面積のバランスから)

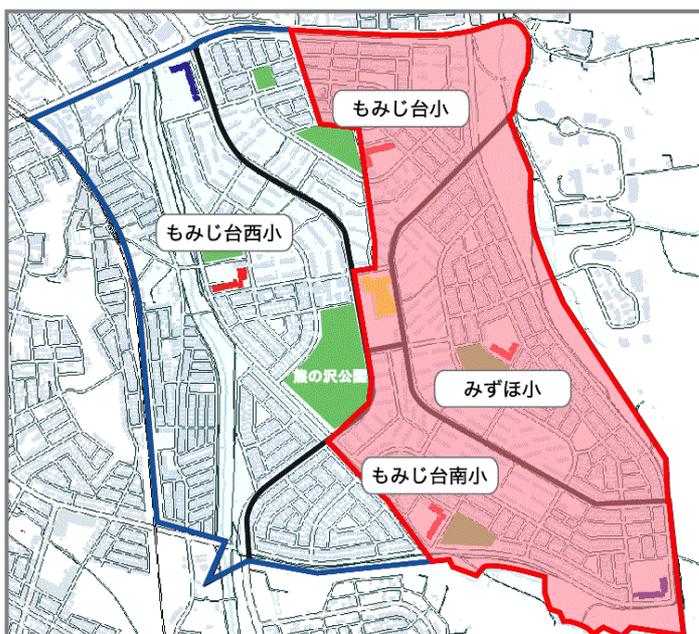


年度	学級(児童)数	
	西部	東部
平成21年	18 (553)	17 (523)
平成22年	18 (539)	16 (509)
平成23年	17 (498)	15 (498)
平成24年	15 (476)	16 (495)
平成25年	14 (458)	15 (468)

- メリット
- ・統合後にはクラス替えが可能となり児童数もほぼ同数の学校規模となる。
  - ・中心部に位置する学校を統合位置とすると、通学距離は2 km以内に収まる。
- 課題
- ・統合時に、現在のクラスメイトと分かれることとなる学校がある。

### 東西パターン

東西パターン のもみじ台小部分を見直したパターン(地域的なバランスから)



年度	学級(児童)数	
	西部	東部
平成21年	16 (517)	18 (559)
平成22年	16 (507)	17 (541)
平成23年	14 (470)	17 (526)
平成24年	13 (449)	17 (522)
平成25年	13 (428)	17 (498)

- メリット
- ・統合後にはクラス替えが可能な学校規模となる。
  - ・中心部に位置する学校を統合位置とすると通学距離は2 km以内に収まる。
- 課題
- ・統合時に、現在のクラスメイトと分かれることとなる学校がある。

## 第3回検討委員会で寄せられた意見(抜粋)

### 検討のスタンス

「どの学校を残そう」という発想ではなく、もみじ台地域全体を一つとして考えたうえで、子どもたちにとって、より良い方策を考えていきたい。  
自分たちの子どものためだけではなく、次の世代につながっていくという認識を持ち検討を進めていきたい。

### 児童数、通学距離から

通学安全は重視する必要があるため、通学距離の面から東西や南北パターンの方が第2回委員会で検討した5つのパターンより望ましい。

東西、南北パターンの方が、学級(児童)数のバランスがよく、どちらも適正な学校規模になっており、将来的なことを考えても望ましい。

(上記2点について、同様の意見複数あり)



### 校区再編の影響

東西及び南北パターンの場合、在学中の子どもたちが、今までの友達と違う学校に通うことになる場合があるという課題もある。

校区の再編により学校が変わるのは寂しいかもしれないが、仲間が増えるという子どもの楽しみはある。学校は勉強するだけではなく、色々なことを学ぶところ、子ども同士でルールを学ぶところでもある。

子どもは大人より人と交わる力が強く、すぐ親しい友達ができるのではないかと。中学校の校区を考えた場合、中学進学時にこれまでの友達と別れてしまうという点で、東西、南北のパターンは心配な面もある。

中学校で新たな友達と出会えるというのは、人間関係の面でむしろ望ましい。

### 校区と自治会との関係

2つの校区双方にまたがることとなる自治会に支障があるかという面についても考えていく必要はある。

東西、南北いずれのパターンにしても、もみじ台全体が一つの地域として子どもたちを見守るということで、その自治会が双方の学校に関われるという考え方をすれば、必ずしもデメリットと考えなくてもいいのではないかと。

自治会が、双方の学校と関わることができるということは、両校を比較できるという点で悪いことではない。学校としてもいい意味で切磋琢磨できるのではないかと。

## 東西、南北パターンの比較

校区のバランスから考えると、東西パターンの方がいいのではないか。

もみじ台の「高低差」という地理的特性から子どもたちの通学を考えると、東西パターンの方がいいのではないか。

通学距離の面から考えると、東西パターンの方がいいのではないか。

南北パターンは、青葉町の児童が多少遠回りして通学しなければいけなくなる場合があるという課題がある。

東西、南北パターンは、どちらもそれほど遠い通学距離ではないので、これらのパターンをもとに次回更に検討を進めるといいのではないか。

児童数、通学距離それぞれのバランスがいいので、東西パターンをもとに考えていくのが望ましい。

東西パターンがいいという意見が多いが、大きな問題であるため、より慎重に検討を進めていくため、南北パターンについても検討の余地を残して欲しい。

## 今後の検討の方向性

東西及び南北パターンをもとに、  
通学距離や児童数のバランスなどを考慮して  
更に検討を続ける

## 第4回検討委員会について

次回の検討委員会は、平成21年1月に開催する予定です。

もみじ台地域小規模校検討委員会事務局

札幌市教育委員会 総務部計画課（配置計画担当）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V 北2条ビル5F

TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837

E-Mail haichikeikaku@city.sapporo.jp

この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載を行う予定です。

[http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/shokibo\\_kentou.html](http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/shokibo_kentou.html)

もみじ台地域小規模校検討委員会では、もみじ台地域の皆様からのご意見をお待ちしております。事務局宛にご意見をお送りください。